

【グローバル教育取り組み部門】

| | |
|--|--|
| <p align="center">タイトル</p> | <p>“Skype in the Classroom”: Skype を活用した普遍的なグローバル教育</p> |
| <p align="center">応募者氏名</p> | <p>堀尾美央</p> |
| <p align="center">作品を通して 伝えたいこと</p> | <p>本校は田舎の公立高校であり、校舎は山に囲まれ、外国人よりも猿の方が多い環境にある。このような環境下で、本校に設置されている普通科英語コースの生徒達に、海外の生徒と関わる機会を増やす目的で、Skype の活用を始めた。最初は ESS 部員内だけの小規模なもので始めたが、徐々に海外との繋がりが増え、2016 年 11 月時点では、Skype で交流をした国は 13 ヶ国にのぼる。交流の中で、普段課題や予習に追われていた生徒の顔が生き生きと輝き、世界との壁や共通点に気付く姿が多くみられた。教員の力と、どの学校でも用意できる設備だけで実施できる、普遍的なグローバル教育の方法として、この取り組みを紹介したい。</p> |
| <p align="center">実践者／団体名</p> | <p>堀尾美央（滋賀県立米原高等学校）</p> |
| <p align="center">実施日・期間</p> | <p>2016 年 2 月～現在</p> |
| <p align="center">主な実施場所</p> | <p>滋賀県立米原高等学校</p> |
| <p align="center">取り組みへの参加者 及び人数</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校 2016 年度 3 年生英語コース生徒 40 名、ESS 部 ・ NPO 法人 Colorbath ・ Nairobi School 生徒有志 10～20 名（ケニア） ・ St.Andrew’s School Turi 生徒 34 名（ケニア） ・ Duc Hop High School 11A1 クラス生徒 47 名（ベトナム） ・ Escola Ramon Llull 生徒 30 名（スペイン） ・ その他交流国（カタール、パキスタン、カンボジア、イスラエル、オーストラリア、スウェーデン、ポーランド、インドネシア、ナイジェリア、ロシア）各校教員・生徒 |
| <p align="center">目標・ねらい</p> | <ol style="list-style-type: none"> ①地理感覚の向上（Mystery Skype） ②国際社会において必要不可欠な英語の運用能力を高める。 ③英語を母国語とする・しないに関わらず、様々な文化背景を持つ人々と交流することで、多様化する英語を認識し、コミュニケーション能力を高める。 ④Skype をはじめとした ICT 機器を活用し、校内にしながら様々な国籍の人と異文化交流をすることで、いずれの学校でも実施可能な普遍的なグローバル教育の在り方を研究する。 ⑤日本や地域の文化・歴史を海外に発信することで、自国についての理解を深め、日本人としてどうグローバル社会で生きていくかを考える。 |
| <p align="center">具体的な 取り組み内容及び 工夫・配慮した点等</p> | <p>【はじめに】 2016 年 1 月、本校 2 年生英語コースの合宿で、NPO 法人 Colorbath の協力を得て、ケニアの Nairobi School、St.Andrew’s School Turi と本校生徒を Skype で繋ぎ、お互いの学校、文化、言語についての異文化交流を行った。その後、Microsoft Education のソーシャルネットワークサイト”Microsoft Educator Community (http://education.microsoft.com)”を利用し、世界各国の学校と本校 ESS 部生徒、あるいは 2016 年度 3 年生英語コースを繋ぎ、”Mystery Skype”という交流学习を中心に、他国と共同授業を行った。また、Nairobi School と定期的に Skype セッション、スペインの Escola Ramon Llull とは手紙交換を通じ、文化交流をはかっている。</p> <p>【取り組み①：Mystery Skype】 これは Microsoft Educator Community で Skype を活用している海外、特に欧米の教育者の間で人気の交流学习だが、時差などの関係もあり、日本での実践例は極めて少ない（日本マイクロソフトより）。この交流学习では、2 国間を Skype で繋ぎ、お互いがどの国や地域にいるのかを知らない生徒達が、英語で質問とヒントを出しあって、相手がどこにいるのかをあてる。質問はお互い、”Yes / No”</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>で答えられるものに絞り、東・西・南・北半球といった広い範囲から、大陸、地域、と絞っていく。</p> <p>お互いの国が判明した後は、お互いの国の言語で歌を歌ったり、言語を教えあったり、お互いの学校の情報（生徒数は何人か、どこにあるのか、何年に創立されたか、人気のスポーツは何かなど）を共有する。以上を行う言語はすべて英語である。</p> <p>【取り組み②：他国との共同授業】</p> <p>Mystery Skype を通じて知り合った国のクラスと、プロジェクトベースやり取り型の授業を行い、生徒がまとめた内容をパワーポイントで英語でまとめ、Skype の画面共有機能を利用して相手国にプレゼンテーションを行う。</p> <p><取り組み例></p> <p>授業名：Product Development Project 「架空商品開発」</p> <p>共同授業相手：Duc Hop High School（ベトナム）クラス 11A1 生徒 47 名</p> <p>テーマ：「大学入試を控えた生徒のための架空商品を考案・提案する」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.) 日本の教員とベトナムの教員が、それぞれ Skype を使い、お互いの国の大学入試制度についての紹介と、この授業の目標を伝える。 2.) クラスを 5 人 1 組の 8 チームに分け、それぞれが商品開発に必要なアンケート調査として、ベトナムの生徒向けに英語の質問を考える。 3.) インターネット上のクラウドサービス One Cloud と、Excel Online を利用してベトナムの生徒対象にアンケートを実施し、結果を分析した上で、ニーズにあった商品を考案し、英語で分析結果を踏まえた商品説明の草稿を作成する。 4.) クラス内で、1 人 1 人が違うチームのメンバーとペアワークの形で草稿を発表し、提示された商品に対するアドバイス、質問あるいはクレームを英語で考え、伝える。その後、グループで集まり、言われたアドバイス等を生かして考えた改善点を踏まえ、商品を紹介するパワーポイントと原稿を英語で仕上げる。 5.) クラス内発表会。投票で Top3 を決め、選ばれた 3 チームがベトナムの生徒向けに Skype を利用しプレゼンテーションを行う。その後、ベトナムの生徒が 1 番魅力的な商品に投票してもらい、優勝を決める。 <p>【工夫した点】</p> <p>Mystery Skype、共同授業いずれの場合も、教員の役割は生徒をサポート・ファシリテートすることである。英語面では、Skype の音声の都合上聞き取りにくかったり、英語を母国語としない生徒達の独特のアクセントを聞き取って言い直したりし、あくまでコミュニケーションの仲介役に徹し、主役は生徒であることを常に意識して取り組んだ。</p> <p>また、Microsoft Educator Community を利用し、極力英語圏以外の国々と Skype を繋ぐようにした。これは、英語が国際共通語であり、英語があれば違う言語や文化背景の人達ともコミュニケーションが取れるということを認識させるためである。また、このように努めることで、結果として、カタール、イスラエル、ナイジェリアなど、なかなか交流できない国々の同年代の生徒達と交流するキッカケを作ることでもできた。</p> |
| 教材・資料 | (インターネットに接続し Skype をインストールした) パソコン、音声機器(マイク・スピーカー)、プロジェクター、スクリーン、世界地図 |
| 成果 | <p>【成果①：英語のコミュニケーション能力の向上】</p> <p>本校、特に英語コースでは、実践的な英語の運用能力の育成に焦点をあて、授業内でディベートやディスカッションを多く行っている。主に英語を「話す」「聞く」点に重点を置いているが、結局は教室内でのみの英語運用のため、文法や単語が適切でなくても安心してしまい、日本人同士にのみ通じる中途半端</p> |

な英語で取り組んでいる生徒が多かった。そのため、実際に外国人を目にすると、通じないかもしれないという不安からか、内弁慶になってしまう生徒も少なくなかった。

Skype での交流を通じて、1 番変化が感じられたのはこの点である。初めてクラスの授業でスペインの 8 歳の子供達と Skype で交流したとき、Yes/No で答えられる簡単な質問でさえ、声が小さく、発音が明瞭でないため、相手に通じず、「自分達には自信がない」と自覚した生徒が非常に多かった。そのうえ、スペインの子達がどんどん学校や日本のことを質問してくるのに対し、こちらは全く質問を考えられず、英語コースの 3 年生なのに「自分達の半分かりの年齢の子達の方が英語が話している」という点にショックを受けた生徒も多かった。その後実施した、イスラエルやポーランド、カタールとの Mystery Skype の時には、1 度で質問が通じ、また自分達で質問を考えて自ら前に話に行き、主体的に取り組む生徒の姿が多く見られた。自己評価でも、自分から積極的に関わった生徒は自身への評価が高く、気持ちがあっても行動に移せなかった生徒の評価は低い傾向があった。評価が低かった生徒は、次のセッションでは積極的に前に行くなど、自分達から「関わろう」とする姿勢と、相手のことを「知ろう」とする姿勢が、取り組み前と比べると大きく変わったのが見て取れた。

【成果②：偏見と固定観念の除去】

この取り組みを通じ、「インターネットや本ではなく、現地の人の生の声を聞いて情報が得られる」という感想が生徒達から多く寄せられた。インターネットや SNS では様々な情報が飛び交っており、他の国や宗教、文化に関する情報を得るのは難しくはないが、どの情報が正しいかを判断するのは簡単ではない。それ故に、特に生徒は偏見や固定観念を持ちやすい。しかし、Skype では直接交流ができるため、生徒が心の中に抱いていた固定観念が崩れる場合も多くあった。

本校では、2 年生英語コースが、3 月に英語でのプレゼンテーション発表に取り組む。その際、イスラム教についてのプレゼンテーションに取り組んだ生徒が、実際に、イスラム教徒であるカタールとパキスタンの先生に Skype を通じてインタビューを行い、「イスラム教徒の女性は車の運転をしてはいけないのか、1 人で外を歩いてはいけないのか」「テロを行う人達は何者なのか」などの質問を聞いた。インタビューの内容を生かし、プレゼンテーションでは、「イスラム教徒を差別しないで」というパキスタンの先生からのメッセージを伝えるなど、非常に意義のある取り組みができた。

【成果③：グローバル実践の認定】

この Skype を使った実践を米国 Microsoft 社の教育実践部門に報告したところ、世界で約 80 名、アジア圏で約 15 名、日本では唯一の Skype 活用教育者(Skype Master Teacher)の認定をいただいた。これは、全世界対象で、Skype を活用しグローバルな実践を行っている教育者のみに与えられる認定である。その結果、米国 Microsoft 社が主催し、Microsoft 社の副社長と世界各国の学校の教室を Skype で繋いでいく全世界規模のオンラインイベント“Skype-a-Thon” (24 時間 Skype) に、日本から初参加かつ唯一の参加校として認められた。これは、「教員の力と、どの学校でも用意できる設備だけで実施できる、普遍的なグローバル教育の方法」として、この実践が認められたといえる成果である。

今後の展開、展望 (この取り組み の生かし方)

まずは、本校での実践を日本中の学校を対象に広げることで、特別な環境でなくても、どこでも実践できる普遍的なグローバル教育の可能性を更に探りたい。

今後の展望として、共同授業だけではなく、Skype を使って海外に日本の知識や文化を発信する取り組みを考えている。例えば、歴史のあるお寺を Skype を使って映しながら歩き、海外向けに生中継で紹介をする、日本で行われている防災対策（避難訓練、地震や津波が来た時の対策など）を海外に紹介するなど、英語で海外に発信する形での活用法を模索していきたい。

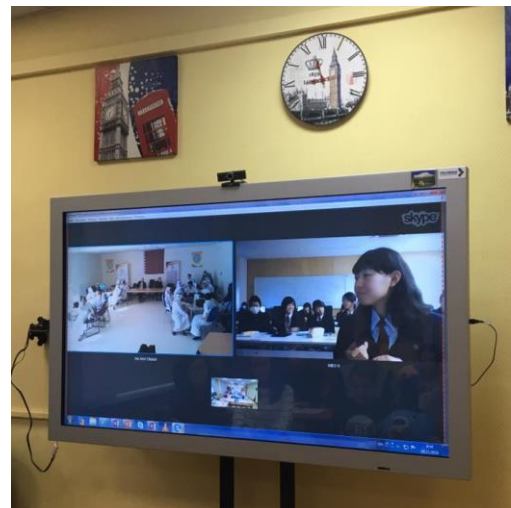
資料 1 : Mystery Skype



Nairobi School (ケニア) との交流セッション



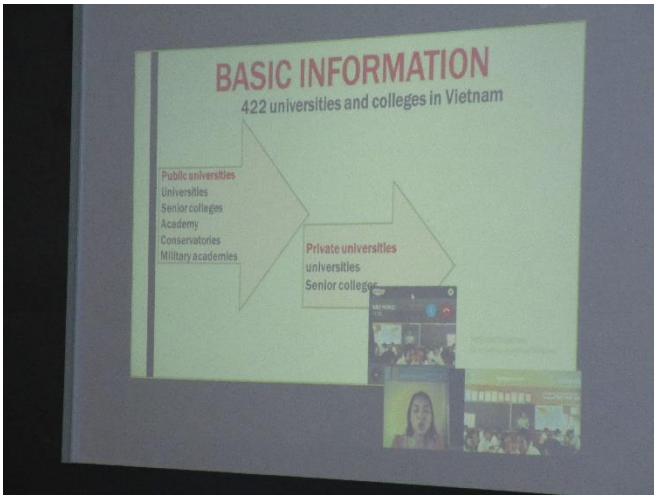
【Mystery Skype (イスラエル) 2016年7月(<https://www.youtube.com/watch?v=6TeMQMKIfKI>)】
生徒達は「イスラエル」と聞くと「危ない」「テロ」などのイメージを持っていたが、この取り組みを通し、自分達の中に知らない間にできている先入観の存在に気付いていた。



【Mystery Skype (カタール・ロシア) 2016年11月】

カタールと日本の2国間で Mystery Skype に取り組んでいたところ、ロシアのクラスも参加し、3か国で行うことに。日本・カタール・ロシアという、それぞれ異なった言語・文化の国が、英語を通してコミュニケーションをとれることに生徒達は感動していた。

資料2：ベトナムとの共同授業“Product Development Project”「架空商品開発」



【日本・ベトナムそれぞれの教員による導入授業】※それぞれ相手の国から撮影

(写真左) ベトナムの教員による、ベトナムの大学入試制度についての日本の生徒への紹介

(写真右) 日本の教員による、日本の大学入試制度についてのベトナムの生徒への紹介

| Which university do you want to go? | What subject do you want to improve? 1 | What subject do you want to improve? 2 | What subject do you want to improve? 3 | If you choose "Others" on question 2 to 4, please write the subject name you want to improve. | Which ability do you want to improve the most for entrance exam? | What other ability do you want to improve for your entrance exam? |
|-------------------------------------|--|--|--|---|--|---|
| Public University | Physics | Literature | Biology | | Ability to solve chemistry / physics / biology questions | -Ability to solve math questions |
| Public University | Chemistry | Physics | Mathematics | | Ability to manage the plan of studying | ... |
| Public University | English | Physics | History | | Ability to memorize English vocabulary | Ability to speak English |
| Public University | English | Mathematics | Literature | | Ability to speak English | English |
| Public University | Biology | English | Physics | | Ability to memorize English vocabulary | Chemistry |
| Public University | Chemistry | Mathematics | English | | Ability to solve chemistry / physics / biology questions | Ability to speak English |
| Public University | English | Literature | Chemistry | | Ability to memorize English vocabulary | Ability to solve chemistry / physics / biology questions |
| Public University | Chemistry | English | Mathematics | | Ability to listen to English | Ability to speak English |

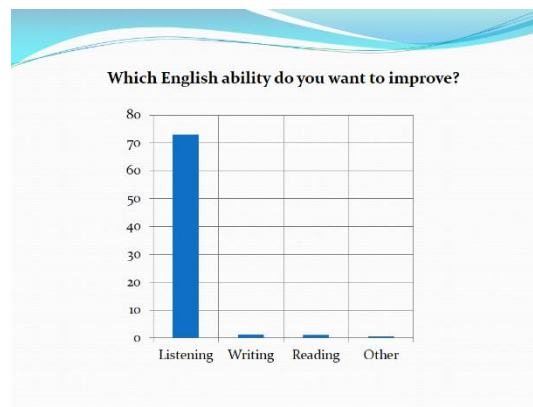
(左)

架空商品を考案するデータ収集のため、ベトナムの生徒に実施したオンラインアンケート結果（一部抜粋）

＜生徒が考案した、ベトナムの生徒への架空商品プレゼンテーションより抜粋＞

function

- Improve English listening ability
- Say Hello and goodbye
- News, song
- Wi-Fi



【架空商品の一例（左）とアンケート結果分析（右）】

アンケートの結果、英語のリスニング力を伸ばしたい生徒が多かったため、リスニング力向上のための人形を考案した。

資料3：生徒の感想

- 相手の英語に訛りがあって聞き取りにくかったけど、逆に考えたら、自分達の英語も訛りがあって聞き取りにくいんだと思った。
- パキスタンの学校の子たちが iPad を学校で使っていると言っていて、ビックリした。
- 相手の子達は自分達よりも10歳ちかく年下なのに、すごく自信をもって堂々と英語を話していた。自分はまだまだだ。
- この前は質問の英語が通じなくて、3度も聞き返されたけど、今回は1回で通じた！
- 最初グループのなかで「イスラエルじゃないか」ってなったのに、危ないとか、テロとかいうイメージで候補から外してしまった。先入観が崩れた。
- 向こうの子たちはみんな積極的。それに比べて自分たちはシャイすぎ。何のために英語のディスカッションとかやってるんだ、と反省した。
- 国のビデオを見せてもらってビックリした。テロのイメージしかなかったけど、遺跡とかリゾートとか街がめちゃくちゃ綺麗だった。
- 今回も自分から質問しに行けず後悔した。やっぱり自分から行かないと何も始まらない。